青森市男女共同参画情報紙
―性別・世代・時代を超え

Un jour アンジュール

「アンジュール」は仏語で「ある日」の意味です

特　集

速報！　市民･事業所意識調査

さらに、10/23 シンポジウムに先駆けて
作家の落合恵子さんから特別寄稿！！

今年 7 月、市民 2,000 人、市内の事業所 200 社を対象に青森市が行った男女共同参画に関する意識調査。その結果に映し出された私たちの姿は、いったいどのようなものでしょうか。

意識調査の結果については、10 月 23 日(日)に青森市男女共同参画プラザ（カダール）で開催する「これからの男女共同参画を考えるシンポジウム」のパネルディスカッションでも取り上げます。シンポジウムの基調講演は、平成 8 年に青森市が男女共同参画都市を宣言した市民フォーラムでも講演してくださった作家の落合恵子さん。シンポジウムを前に、落合さんから私たち青森市民へメッセージも届いています！

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え
人と協調し　人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を
宣言します。

平成 8 年 10 月 22 日　青森市

アンジュール的 私の言の葉

・会社の上司がさわる」と、友達が怒っています。でも、「やめてください」とは言いづらい。会社を辞めることになるのは困るというのも理由。セクハラという言葉はずいぶん前からある気がします。なんでなかなかなくならないの？　30代　良い環境で働きたい同盟）

・乳がん検診の受診率が上がらないと聞いたけれど、わかる気がする。私も実は、行かなきゃと思いつつ、ずーっと先延ばしにしています。技師やお医者さんが男性かもしれないと思うと、一歩が出ない。ごめんなさい、男性のお医者さんたち。微妙なトコなんです、ご理解ください。女性医師や女性技師が増えるといいなぁ。（40代　気持ちはある）

・退職後の男性について、地域に居場所がないとか、友達がいないとか、趣味がないとか、言われてました。ふっと、自分のことを振り返りました。私は女性だけれど、仕事がんばった。PTAはパスした。地域活動もしなかった。趣味はない。退職したら、どうするんだろう。まずは何か始める気力を持たなきゃ。（50代　女だって大変）

・いろいろな会議に出て、女性がいない会議はダメだとつくづく思うようになった。男は、しがらみか何かわからないけれど、自由な発想がない。いや、それより、生活者として生きてこなかったから、見えないのかもしれない。（60代　男女共同参画に目覚めた男）

・テレビの朝のドラマで 女性たちよ、いい人生を！」というセリフが何度も出てきました。勇気づけられます。一人で乾杯して、元気を出しています。（60代　男性たちよ」も加える？）

2011.10.1　No.39

ニュースの目

ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
「逆差別なのじゃないの?」
「『平等』に反する！」
という声にお答えします

現代日本では、女性が労働力の 40%を占め、社会のいろいろな分野で活動しています。しかし、指導的な立場で活躍している女性はというと、他の先進諸国に比べて、まだまだ少ない状況にあります。

そこには「男は仕事、女は家庭」「リーダーシップは男」「女はおとなしく従順であれ」など、男女の役割についての固定的性別役割分担意識、古くからの偏見・差別などが影響しています。そうした影響から生じた社会的状況の格差を解消し、実質的な機会の平等を担保するためには、単に法律等で男女差別を禁止するだけでは困難であり、より積極的な取組みが必要となります。これが、ポジティブ・アクションです。

国では、「『2020 年 30%』の目標」を掲げ、社会のあらゆる分野において、2020 年までに指導的地位(議会議員や法人・団体等における課長相当職以上の者など)に女性が占める割合を少なくとも 30%程度とすることを目指しています。

ポジティブ・アクションは、あくまで活動に参画する機会についての男女間の格差が解消されるまでの暫定的な措置です。法律上定められたもので、憲法の平等原則にも反しません。

●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力で悩んでいる、自分自身の生き方や家庭のことで相談したいなど、あなたが抱えている悩みを相談員がお聞きします。

毎週月･木（祝日・年末年始・休館日を除く）
○電話相談　☎ 017(776)8850
○面接相談　10:00～12:00
　　13:00～16:00
＊面接相談は予約が必要です。
平日 9:00～18:00　☎017－776-8858

＜発行＞
青森市市民生活部市民協働推進課
男女共同参画室
〒030-8555　青森市中央 1-22-5
☎　017(734)2296　FAX　017(734)5232
＜編集スタッフ＞
企画集団プティジュール：白井壽美枝
藤川あきつ・沼田久美・阿部美智子

転載希望の方はご連絡ください。

今年も10月は 青森市男女共同参画都市宣言記念月間

平成 8 年 10 月 22 日
青森市は全国 8 番目の
宣言都市になりました

昨年の月間事業から

今年も事業が目白押しです。男女共同参画プラザ「カダール」が主会場です。

＊オープニング「インナーパークへ集合！」…1 日(土)　ピンクリボンの木の前で記念写真を撮りましょう！　（大きなピンクリボンは 10 月いっぱい展示）
＊縄文の杜あおもりツーデーマーチに参加しよう！…16 日(日)
＊じゃらん・じゃらんカフェ　カダールで語ろう、安らぎの時間…23 日(日)
＊これからの男女共同参画を考えるシンポジウム…23 日(日)
　基調講演：落合恵子「誰かの幸せが、ほかの誰かの幸せになるように」
　　～7 年間の介護を通して見えた社会～
　パネルディスカッション：
　　パネリスト　本宮彰（㈱JR 東日本青森商業開発代表取締役社長）
　　沼田桃子（司法書士）
　　出崎真里（青森市生涯学習推進員）
　　コーディネーター　白井壽美枝(NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会理事長)
＊カダール de おまつり…30 日(日)ショートムービー上映、ケンシンジャーと遊ぼう他
＊マリア幼稚園児「大好きな人の絵」展示…1 日(土)～31 日(月)新町アートパネル
＊Women's ライブラリー「女性に関する図書コーナー」…1 日(土)～31 日(月)市民図書館

このほかにも、記念月間中はカダール、アコール事業が盛りだくさん！
詳しくは、各施設スタッフまでお問合せください。

アンジュールのSHIRAIさん

■15 年ぶりの落合恵子さん

青森市が男女共同参画都市を宣言したのは 15 年前の平成 8 年 10 月 22 日でした。基調講演は落合恵子さん。講演テーマは「自分にごほうびー『わたし』から―」。自分へのごほうび…これが、新鮮に響く時代でした。衝撃的ですら、あった。

その後、男女共同参画社会基本法もでき、法制度の整備は少しずつですが進んでいます。落合さんが何を語られるのか、楽しみです。

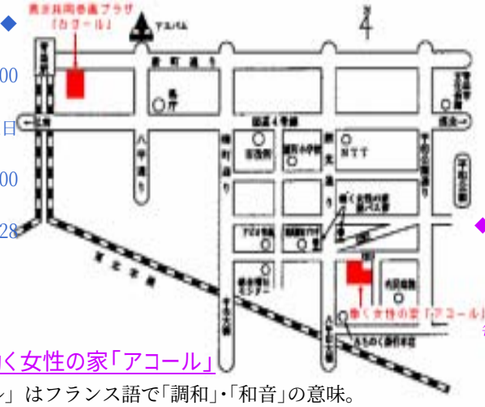
■入試の模擬問題に「あら、いいわ」

高校受験用の英語の問題に目をやって、そのまま読み続けてしまいました。二人は男の子です。友達の家を訪ねて「パパの方がママより帰宅が早いからパパが夕食を作る」にびっくり。一方、友達とその姉妹は「家事はママ」を聞いてびっくり。そして…、いいですね、性別役割分担意識の払拭はこんなところからも進められるかも。

●青森市男女共同参画プラザ「カダール」

「カダール」は津軽弁で仲間になるという意味の「カダル」と、共に語り合うという 2 つの意味を表現。市民のみなさんと男女共同参画社会づくりをすすめていくための拠点です。　〒030 - 0801　青森市新町 1-3-7　アウガ 5F・6F

◆ カダール ◆
【開館時間】
9:00～22:00
【休館日】
毎月第 2 水曜日
【電話】
017(776)8800
【FAX】
017(776)8828



◆アコール◆
【開館時間】
9:00～22:00
【休館日】
毎月第 2 日曜日
【電話＆FAX】
017(723)1700

●青森市働く女性の家「アコール」

「アコール」はフランス語で「調和」･「和音」の意味。
社会参画に取り組むすべての女性を応援し、お手伝いする施設です。女性はもちろん、男性も利用できます。　〒030-0821　青森市勝田 1-1-2

今年７月に市民2,000人、市内の事業所200社を対象として行った
市民・事業所意識調査の結果を、一部速報でお届けします！

速報！

青森市 男女共同参画に関する 市民 事業所 意識調査

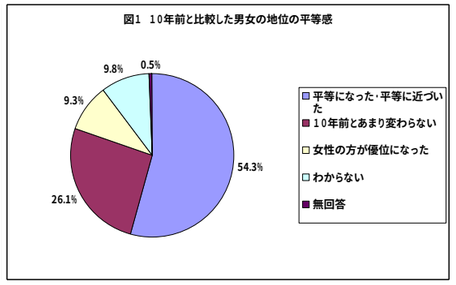
十年前に比べれば平等に近づいた それでもまだ男性の優位は変わらない

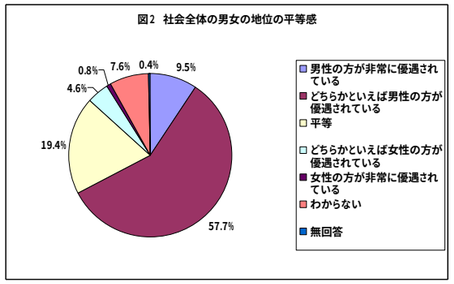
青森市が男女共同参画都市を宣言したのは、今から15年前のこと。今回の意識調査で10年前と比較した男女の地位の平等感について市民のみなさんにたずねたところ、10年前に比べて「平等になった・平等に近づいた」と答えた方が回答者の54・3％とトップ（図1）。男女共同参画社会基本法の施行から10年の節目に当たり、昨年、内閣府から「男女共同参画が必ずしも十分には進まなかった」との反省の弁があったものの、回答者の半数以上が、この10年の間に何らかの進歩があったと認めています。

とはいっても、社会全体の男女の地位の平等感をたずねる質問には、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた方が回答者全体の57・7％ともっとも多く、依然として、男女平等というよりも、男性が優位であると感じている人が多いことが分かります（図2）。男女共同参画社会の実現までの道のりは、まだまだ険しそうです！

◆意識調査の概要

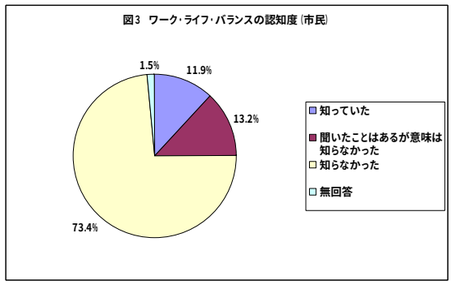
	市民	事業所
調査対象	20歳以上の市民2，000人	従業員10人以上の市内事業所200社
調査方法	郵送による調査票の配付･回収	
調査期間	平成23年7月1日～21日	
回収率（速報値）	47.5%	54.0%

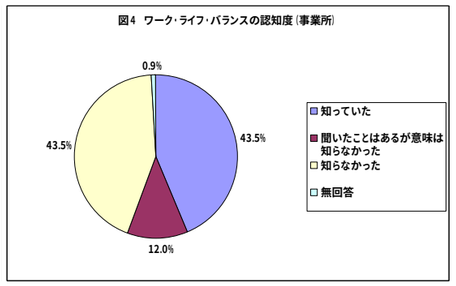


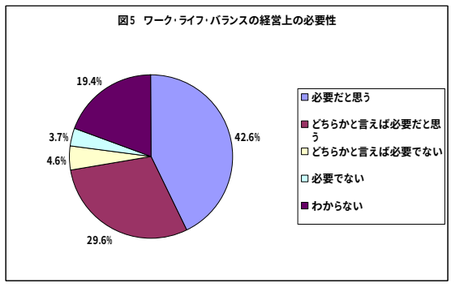


いまだ認知度が低いワーク・ライフ・バランスとはいえ企業も必要性を感じている

仕事、家庭生活、地域生活、個人の生活など様々な活動を、自らが希望するバランスで行い、健康で豊かな生活を送ろうというワーク・ライフ・バランス（以下「WLB」と表記）。このWLBという言葉については、回答者の7割以上が「知らなかった」と答えています（図3）。一方、事業所調査では、「知っていた」（43・5％）と「知らなかった」（43・5％）の答えが同じ割合（図4）。それでも、企業経営上のWLBの必要性については、「必要だと思う」と答えた事業所が42・6％、「どちらかといえば必要だと思う」と答えた事業所が29・6％と、多くの事業所が、その必要性を認めていることが分かります（図5）。今後は、企業を巻き込んだ動きがWLB普及のカギとなりそうです。







10月23日(日)シンポジウム 一緒に考えませんか これからの男女共同参画

10月23日（日）に青森市男女共同参画プラザ・カダールで開催する「これからの男女共同参画を考えるシンポジウム」では、意識調査のこのほかの結果についてもご紹介しながら、これからの青森市の男女共同参画をみなさんと一緒に考えていきます。基調講演には、作家の落合恵子さんが登場します。詳しくは、チラシ・ポスターなどでご確認ください。

特別寄稿

あなたという部屋の鍵

作家 落合 恵子 さん

「りんごの皮は誰がむくの？」

青森の男女共同参画社会のスタートとなったあの日。多くの女性たちが前掲のコピーのもとに集い、熱く語り合った日がいまでも、わたしの心に鮮やかに刻まれている。

あれから……。

沢山の日々が過ぎていった。

その間、様々な変化が、社会に、そうしてそれぞれの女性の人生にも訪れたはずだ。

喜びや悲しみ、喪失や充実、あるいはそういったひとつの言葉には集約はできないほどの、微妙で複雑な変化もまた。

わたしも、ほぼ7年のあいだ在宅で介護をした最愛の母を見送った。この秋で5年になるのだが、心にぽっかりあいた喪失の洞のようなものは、いまでもここにある。

あなたの日々はどうだったろう。

先日、二冊の本をまとめあげた。『積極的その日暮らし』（朝日新聞社・刊）と『「孤独の力」を抱きしめて』（小学館・刊）。一方は新聞に連載したものに加筆したもので、もう一方はあらゆる年代の多くの女性に取材をし、書き下ろしたものである。

この二冊をまとめあげている間、ずっとわたしの心の中で響いていた、ひとつのフレーズがある。詳しくは本の中でも触れているが、次のような一節だ。

I locked myself out.

「わたしは、わたし自身を閉め出して、部屋に鍵をかけてしまった」という意味である。

たとえばホテル。つい、うっかりと部屋の中にルームキイを置いて外に出て、オートロック式のドアを閉めてしまった場合の状態などをいう。

ルームキイなら予備の鍵をフロントでもらえばいい。が、自分の人生から他でもない自分を閉め出してしまったら…。誰から、どこから予備の鍵をもらえばいいのだろう。第一、人生に予備の鍵などあるのだろうか。閉め出さないことだ、自分の感情生活を、自分の夢を、自分の日々そのものを、自らの人生から。

なぜなら、あなたを生きることができるのは、「あなた」しかいないのだから。

そのことのかけがえのなさを、10月23日、ご一緒に考えたい。

おちあい・けいこ

作家・東京家政大学特任教授。執筆と並行し、東京青山、大阪江坂に子どもの本の専門店クレヨンハウス、オーガニックレストランなどを主宰。総合保育雑誌「月刊クーヨン」発行人。被災地の子どもに本を送るプロジェクト「HUG&READ」代表。

主な著書に「母に歌う子守唄…わたしの介護日誌」「絵本処方箋」（朝日新聞出版）、「崖っぷちに立つあなたへ」（岩波書店）。新刊に「積極的その日暮らし」（朝日新聞出版）、「孤独の力を抱きしめて」（小学館）。翻訳絵本に「おやすみ、ぼく」「キスの時間」（クレヨンハウス）等多数。

落合恵子さんの特別寄稿は3回目！
過去2回のタイトルと表紙写真を紹介します。

「自分にごほうびあげてますか」

創刊号（平成8年7月20日発行）より

「三つに引き裂かれない女」

第3号（平成9年3月20日発行）より